

如来にょらいの作願さがんをたづぬれば

苦悩くのみの有情うじょうをすてずして

回向えこうを首しゆとしたまひて

大悲心だいひしんをば成就じょうじゆせり

（『註釈版聖典』六〇六頁）

「宗祖讃仰作法」には、親鸞聖人がお書きになった和讃を中心とする法要と音楽法要の二種類があり、和讃中心のご法要は、浄土真宗で最も親しまれている「正信偈」のおこころが和讃であらわされています。最初の「如来の作願をたづぬれば」から「一代諸教の信よりも」までの和讃が、「正信偈」でいうと「依経段」にあたり、「本師龍樹菩薩の」から「智慧光のちからより」までが「依釈段」にあたります。

和讃は、「和語で書かれた『教行信証』」ともいわれています。その中より「正信偈」冒頭の、

帰命きみょう無量むりやう寿じゆ如来にょらい南無なむ不可いか思議しぎ光こう  
法蔵ほうぞう菩薩ぼさつ因位いんゐ時じ在世せいぜ自在じざい王おう仏ぶつ所しよ